

(3) 授業の質的改善のプロセス

ア A校の質的改善のプロセス

授業の質的改善を図るために、以下のような取組を行いました。

授業の質的改善の手順①

児童の実態を資質・能力の面から捉え、育成したい資質・能力を設定した。(6月)

算数で育成したい資質・能力の面から、学級の実態を調査しました。

⇒A校の学級の実態はこちらをクリック!!

click



授業の質的改善の手順②③

児童の実態を「主体的・対話的で深い学び」の面から捉え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「授業振り返りチェックシート」「授業の見直しと質的改善を図るための手立て」を基に、日々の授業を振り返り、授業の改善点を考えた。(7月)

本研究では、研究委員による実際の1時間の授業の分析を行いました。

⇒A校の授業の分析はこちらをクリック!!

click



授業の質的改善の手順④

授業の質的改善に向けて実践し、実践を振り返り、成果と課題を明確にし、次の実践につなげた。

実践 9月 単元名「倍数と約数」

授業の質的改善の視点や手立てを取り入れた実践を行いました。

⇒A校の実践はこちらをクリック!!

click

実践 11月 単元名「面積」

9月の実践の成果と課題を踏まえ、授業の質的改善の視点や手立てを取り入れた実践を行いました。

1時間の授業の各段階で目指した具体的な姿、授業の質的改善の視点や手立て、成果と課題は以下のとおりです。

	目指した具体的な姿	授業の質的改善の視点や手立て
自力解決段階	答えが出たら終わりではなく、他の方法を考えようとする。	・「他の人は違う考えを持っているんじゃないかと考えて、1つの考えが書けたら、違う考えも書いてみよう」と促した。
学び合う段階	数学的な表現を用いて筋道を立てて説明している。	・式の中の数字がどこを表すかなど、発表者本人に言わせたり、他の児童につなげたり、一旦、全体に戻したりして考えさせた。
まとめる段階	問題解決の過程を振り返り、どのような問いがあり、どのように解決したかを振り返っている。	・振り返りのポイントを示し、その中から選んで振り返りを書くようにした。

成果

- ・考えは一つではないという雰囲気が広がり、他の考えを出そうとする児童が増えた。
- ・根拠や、式や図の中にある数字の意味について説明する児童が増えた。
- ・振り返りの中に、問題解決の方法を自分の言葉で書く児童が増えてきた。

課題

- ・友達の考えを聞いて、自分の考えをよりよいものに高めようとする姿があまり見られない。

実践 12 月 単元名「単位量あたりの大きさ」

11 月の実践の成果と課題を踏まえ、授業の質的改善の視点や手立てを取り入れた実践を行いました。

1 時間の授業の各段階で目指した具体的な姿、授業の質的改善の視点や手立て、成果と課題は以下のとおりです。

	目指した具体的な姿	授業の質的改善の視点や手立て
学び合う段階	よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしようとしていたりしている。	・考えの共通点や相違点に目を向けて表現させたり説明させたりすることで、これまでの学習と関連付けたり、より根拠を明らかにしたり、よりよい考えに高めたりした。
まとめる段階	問題解決の過程を振り返り、どのような問いがあり、どのように解決したかを振り返っている。	・問題解決の過程を振り返る際、振り返りの視点を明確にして振り返らせた。

成果

- ・根拠を明らかにして話す児童が増えた。
- ・既習（平均の学習）が本時の学習でもそのまま使えることを見つけて、統合的に考える児童が増えた。

課題

- ・一人一人の考えや表現を、全体で洗練したり、互いの考えをより良くしたりする姿があまり見られない。



継続的に、授業の質的改善の視点や手立てを取り入れた実践を行い、振り返り、次の実践につなげていくことで、日々の授業を質的改善していきました。



授業の質的改善の手順①

児童の実態を資質・能力の面から捉え、育成したい資質・能力を設定しました。(6月)

算数で育成したい資質・能力の面から、学級の実態を調査しました。学習状況調査の結果と学級担任の見取りにより、以下のような児童の実態がありました。

知識・技能

- ・公式や計算のきまりなどを覚えている児童は多いが、どの場面で使えばいいか迷う児童が多い。(担任の見取り)
- ・「1より小さい数で割ると商は被除数より大きくなる」という除法の性質を問う問題の正答率が34.7%であった。
計算の意味と性質の理解が十分ではないといえる。(学習状況調査)

思考力・判断力・表現力等

- ・問題解決の方法を、何らかの方法で表そうとしているが、相手を意識した説明ができていなかったり、図や式、言葉などで筋道を立てて表現したり説明したりすることができていない児童がいる。(担任の見取り)
- ・「～の考えを使えばいいんじゃない？」とつぶやいている児童がいる一方で、既習の内容を基にして、解決の方法を考えることができない児童がいる。(担任の見取り)
- ・数学的な表現を用いてまとめられず、教師の板書を待っている児童がいる。(担任の見取り)

主体的に学習に取り組む態度

- ・与えられた問題に進んで関わろうとしている児童は多いが、自ら進んで「他の解き方はないかな」と課題を持って取り組もうとする姿があまり見られない。(担任の見取り)
- ・自分の考えを説明しようとするが、相手意識をもって説明したり、聞いたりする姿があまり見られない。(担任の見取り)
- ・自分の考えを友達と話し合うことが好きな児童が約8割いるが、学び合いの段階で何を話したらいいのか分からない児童もいる。(担任の見取り)



この実態を踏まえて、育成したい資質・能力を以下のように考えました。

知識・技能

- ・数量の概念とその表し方、計算の意味と性質を理解し、整数、小数、分数の計算をすることができる。
- ・図形の概念と意味、その性質について理解し、図形を構成したり図形の面積や体積などを求めたりすることができる。
- ・式、図、表やグラフの意味を理解し、事象や問題を式、図やグラフに表したり、表された式、図、表やグラフから事象を読み取ったりすることができる。

思考力・判断力・表現力等

- ・問題解決の方法を、図や式、言葉などで筋道を立てて表現したり説明したりすることができる。
- ・既習の内容を使って問題解決することができる。
- ・数学的な表現を用いて、学習したことを簡潔・明瞭・的確に表現することができる。

主体的に学習に取り組む態度

- ・「他にもできないかな」「どうすればできるのだろう」などと自ら進んで取り組もうとする態度。
- ・「友達はどうのような考えなのだろう」「自分の考えを伝えたい」などと、相手意識を持って話し合おうとする態度。

授業の質的改善の手順②③

児童の実態を「主体的・対話的で深い学び」の面から捉え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「授業振り返りチェックシート」「授業の見直しと質的改善を図るための手立て」を基に、日々の授業を振り返り、授業の改善点を考えました。（7月）

事例（5年生）

本時の目標

合同な図形について理解することができる。

（知識・理解）

過程	学習活動	教師の発問、児童の様子				
		*授業の成果や課題と考えられることは、ゴシックで表示 T:教師 C:児童				
つかむ	1 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	T: (前時までの学習の振り返りをした後) 今日はその勉強を少し発展させて、3つの四角形を取り上げたいと思います。 (問題を書く) T: 問題を読んでみましょう。(電子黒板で問題提示) T: この問題の意味がわかりますか? C: え〜っと…… T: もう1回問題見てみましょうか。 C: 対角線? T: 問題の中に今からやること書いてありますよね。ここはとっても大事です。(と、問題文に線を引く)「1本の対角線で2つに分けます」と書いてあるね。(と、板書をする) その後、代表児童に対角線を1本書かせる。 T: どうですか? C: いいで〜す。 T: 対角線で2つに分けて、どうする? C: 折る。 C: 切る T: 折る、切るだけでなく重ね合わせなきゃいけないね。 それを、長方形でも平行四辺形でも台形でも調べましょうというのが今日のめあてです。(めあてを板書する)				
見通す	【つかむ段階の成果】 - 電子黒板を使い、問題場面を提示することで、どんな問題場面なのかを理解させることができた。 【つかむ段階の課題】 - 児童が「考えたい」と思う場面設定になっていない。 - 導入や見通しで、教師が説明し過ぎている。 - 学習のめあてを教師側から与えている。					
「授業振り返りチェックシート」で、この段階のステップをチェックしました。 <table><tr><td>段階</td><td>授業づくりのステップ (□に✓を入れ、自分のステップをチェックしてみましょう。)</td></tr><tr><td>つかむ段階</td><td> 【ステップ1】 ✓授業の中で「めあて」を板書し、児童に示していますか？ 【ステップ2】 □「めあて」を、児童に理解させることができていますか？ 【ステップ3】 □「めあて」は、1時間の授業で何ができるようになればよいのか、何をどのように考えればよいのかなど、児童が具体的にイメージできるものになっていますか？ </td></tr></table> 【ステップ2】を目指して、段階ごとのチェックシートを使って、次項の改善策を考えました。 			段階	授業づくりのステップ (□に✓を入れ、自分のステップをチェックしてみましょう。)	つかむ段階	【ステップ1】 ✓授業の中で「めあて」を板書し、児童に示していますか？ 【ステップ2】 □「めあて」を、児童に理解させることができていますか？ 【ステップ3】 □「めあて」は、1時間の授業で何ができるようになればよいのか、何をどのように考えればよいのかなど、児童が具体的にイメージできるものになっていますか？
段階	授業づくりのステップ (□に✓を入れ、自分のステップをチェックしてみましょう。)					
つかむ段階	【ステップ1】 ✓授業の中で「めあて」を板書し、児童に示していますか？ 【ステップ2】 □「めあて」を、児童に理解させることができていますか？ 【ステップ3】 □「めあて」は、1時間の授業で何ができるようになればよいのか、何をどのように考えればよいのかなど、児童が具体的にイメージできるものになっていますか？					



自 力 解 決	【つかむ段階において、考えられる改善策】 →資料の提示を工夫し、児童に疑問を持たせる。(ア) →言ってほしい言葉、考え方を教師が明確にしておき、児童の気付きや発言を引き出すような発問をしたり、問い返したりする。 →児童に「どうなるのだろう？」という疑問を持たせたり、「やってみたい」と思わせたりして、めあてを児童と一緒に作る。(イ)(ウ)(エ)	
	四角形を対角線で分けた形を調べよう	
学 び 合 う	2 見通しを持ち、自力解決をする。 【自力解決の様子】 	T：(教科書後ろのページのある図形を示し) 切り取って、対角線を引いて、重ね合わせて調べてください。
	3 グループと全体で話し合う。 ・ 3人グループで話し合う。 【学び合う段階の課題】 ・ 学び合いに入るとき、話し合う内容が、答え合わせだけになっている。何を話し合うのかを明確にしていない。 ・ 全体で話し合う。 【学び合う段階の課題】 ・ 全体での学び合いで、児童が発表した考えを、教師が説明している。	T：3人グループで、長方形はどうだったかな、平行四辺形はどうだったかな、台形はどうだったかな、と確かめ合ってください。  T：重ね合わせたらどうなったかを結論をグループの中で出してください。 T：では、どんなふうにして調べたか前に出てきて発表してください。 (答えを黒板に掲示して)  C：……して、OOになりました。いいですか。 C：いいです。(拍手)

T：いいですか？重ね合わせることができましたね。今、○○くんは何と言ったかというと……。 (説明して、板書にまとめる)



「授業振り返りチェックシート」で、この段階のステップをチェックしました。

段階	授業づくりのステップ (□に✓を入れ、自分のステップをチェックしてみましょう。)
学 び 合 う 段 階	【ステップ1】 ☒ 児童の考えを学級全体で共有する活動になっていますか？ 【ステップ2】 ☐ 一部の児童の発表で進むのではなく、児童同士の考えをつなぎ、児童同士の交流を通して、考えの根拠を明らかにする活動になっていますか？ 【ステップ3】 ☐ 児童同士の考えを比較・検討することで、よりよい問題解決の方法を見いだしたり、既習と関連付けて統合的に考えたりする活動になっていますか？

【ステップ2】を目指して、段階ごとのチェックシートを使って、次の改善策を考えました。



【学び合う段階において、考えられる改善策】

- 相手の説明に質問をしたり、意見を言ったりするようにさせる。(セ)
- 発表を区切り、続きを考えさせたり、発表したことを他の児童に再現させたりする。(ツ)

4 本時のまとめをする

長方形、平行四辺形は、1本の対角線で分けると2つの合同な三角形になる。台形は対角線で分けても合同にならない。

【まとめる段階の課題】

- ・学習のまとめを教師が説明している。
- ・本時の学習を、本時だけの学びで終わらせている。

T：今日は1本の対角線で分けて考えましたが、まとめは自分で書けますか？

T：(今日のめあてとそれぞれの図形で言えた事を再度説明して) このことを自分の言葉で書いてください。

最後に2名の児童に発表させる

T：いいですか？

C：いいです。

最後に、教師が「書いてほしいこと」として、板書にまとめて学習を終わった。

「授業振り返りチェックシート」で、この段階のステップをチェックしました。

段階	授業づくりのステップ (□に✓を入れ、自分のステップをチェックしてみましょう。)
ま と め る 段 階	【ステップ1】 ☒ 学習内容の「まとめ」を板書していますか？ 【ステップ2】 ☒ 「まとめ」は、「めあて」に対応したものになっていますか？ 【ステップ3】 ☐ 児童の発言を取り上げながら「まとめ」を行うことやキーワード・文の書き出しなどを示して、児童が「まとめ」を行うことができるようにしていますか？

【ステップ3】を目指して、段階ごとのチェックシートを使って、次項の改善策を考えました。



	【まとめる段階において、考えられる改善策】 →問題解決の過程を振り返り、どのような問いがあり、どのように解決したか、思考が分かる板書にする。(㊦) →本時の学びを既習の学習と関連付けたり、新たな問いを見いだしたりさせるようなまとめ、振り返りにする。
--	---

ここで考えた改善策を、次の授業の手立てとし、授業の質的改善を進めていきました。